

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	共同事業費補助金事業（主要事業）							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	商工振興担当係長 相羽敏明
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			③基本施策	商業	コード	3-3-3
					④単位施策(中)	商店街の活性化	コード	3-3-3-1
	②項	産業振興			⑤単位施策(小)	商店街活動の推進	コード	3-3-3-1-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	活動に参加する商店街（発展会）		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	商店街（発展会）が主体となって顧客・地域住民のニーズに合った商店街の活性化を図る。			
1-5 事務事業の内容	商店街が行う活性化事業に対して補助金を交付する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	従来通りの商業活性化事業への補助金に留まっている。	高齢化社会に向けた変化を的確に対応する支援が望まれる。	市民の消費生活及び価値観の著しい変化を的確に対応することが求められている。		
平成19年度	新事業を実施し、新規会員の獲得に努めた。	〃	〃			
平成20年度	前年度事業の拡充が図れた。	〃	〃			
平成21年度	発展会等が主体となって事業提案に対しての補助制度に変更した。	〃	〃			
平成22年度	発展会からの事業提案は難しく、商工会提案の市内全域を対象とした活性化事業を実施した。					
平成23年度	発展会からの事業提案は難しく、商工会提案の市内全域を対象とした活性化事業を実施した。					
平成24年度	発展会からの事業提案は難しいので、商工会提案の市内全域を対象とした活性化事業を実施した。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	発展会会員数（人）	250（人）	210（人）	衰退が進みつつある商店を商店街活性化事業のより減少歯止めを掛け、増加を目標とした。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a (単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b (千円)	1,049	2,588	2,965	2,525	8,473	1,754	3,367		
人件費 c (千円)	335	1,001	994	969	1,253	1,228	1,196				
合計コスト d (b+c) (千円)	1,384	3,589	3,959	3,494	9,726	2,982	4,563				
単位コスト d/a (千円)	会員当たり 6	会員当たり 17	会員当たり 18	会員当たり 17	会員当たり 81.8	会員当たり 18.5	会員当たり 29	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 →

直接事業費：商業対策事業費／地域経済活性化事業費
 げんき商店街推進事業費 2,783千円（県・市補助金1,734千円で、うち市補助金867千円） 地域活性化事業 5,000千円（うち市補助金2,500）
 人件費：5,978千円×0.2（人）=1,196千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績(人)	224	215	217	206	180	161	156			
	後期目標値 に対する達 成度(%)	89.6	86.0	86.8	82.4	85.7	76.7	74.3			

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己 分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	B	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準 ①必要性(必要な事務事業であるか)
 ②公共性(公が実施する意味があるか)
 ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	今後、少子高齢化により既存商店街の活性化が最重要となっているが、業者も高齢化しており、業者主体で事業を行って行く事が難しい状況である。	国・県の補助制度を活用した事業を商工会等に向いて活性化事業の推進に努める。	従来通りの商業活性化事業への補助金に留まっている。
	平成19年度	小規模事業者の高齢化により会員の減少が進んでいる。	がんばる商店街推進補助事業を最大限に活用し、現事業を更なる改良を重ね活性化事業の推進に努める。	商工会が主体となって新規事業の展開を見た。
	平成20年度	"	当該事業を活用し、会員の獲得に努める。	前年度事業の拡充が図られた。
	平成21年度	"	"	青年部等の商工会会員の一部であるが積極性が見られるようになってきた。
	平成22年度	発展会からの事業提案は難しく、商工会からの事業提案を愛知県補助事業の支援を受け活性化事業を実施し、多くの商店の参加が得られた。街路灯のLED化とお出かけナイトセールを実施した。		
	平成23年度	発展会の事業提案は難しい状況であるため、商工会で、花をテーマとした「花の街・豊明」づくり事業を行い新規会員の獲得が図れることで、組織強化が図れ、組織的な活性化事業が実施された。		
	平成24年度	発展会単独では事業展開は難しい。そこで昨年度に引き続き、花をテーマとした「花の街・とよあけ」事業に、新たに「軽トラ市・屋台村事業」、及び「B級グルメ事業(ひきずり)」を商工会が主となり実施した結果、多くの方がイベント会場などに訪れていただけするなど、全市的な活性化を図ることができた。		
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	B	商工会にリーダーシップを発揮させ商店街を発展させること。
	平成19年度	A	がんばるBOXの成果をフォローし、効果を増すような具体的な支援を行い事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度	B	発展会会員数を維持するための方法を検討すること。
	平成24年度	A	継続して事業を進めること。
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		